

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R4(2022).5.10
豊岡市のホームページにもアップしています

No. 1

ごあいさつ

- ◆ 本年度、研修センターでお世話になります森山健二です。精一杯務めていきますので、1年間どうぞよろしくお願いいたします。
- ◆ 今年で3年目を迎えます第4次とよおか教育プランの基本理念は「ふるさと豊岡を愛し、夢の実現に向け挑戦する子どもの育成～非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を子どもたちに～」です。
- ◆ 2年間、教頭として学校現場で仕事をさせていただきました。「非認知能力って何？」「今、どうして非認知能力が必要なの？」「どうすれば非認知能力は高まるの？」から始まり、手探り状態で教育活動に励まれる先生方と一緒に歩んだ時間でした。
そんな中で、次のような子どもたちの姿が見られました。

登校を再開したばかりの子どもたちは、姿勢を維持すること、集中して取り組むことが難しい状態であった。校内委員会を開いて対応を協議し、次のことに取り組んだ。
○朝学習に運動を行い、脳を目覚めさせる
○複数による指導を行い個別に声をかける

特にB児には、腰の辺りをさするながら「格好いい姿勢だな」と声をかけたり、一緒に鉛筆を持って平仮名を書いたりした。書けた字を見て「ここのはねが格好いいな～」と一緒に喜ぶと、「次は一人で書いてみる」と言って、「グー、ピタッ、ピン」の姿勢を自分でチェックして練習に取り組んだ。

私が、掃除の時間に傘立てを拭いていたところ、A児が「僕も拭いていい？」と言って拭き出す。一生懸命に拭いてくれたことを喜び、「家の人に伝えるんで」と声をかけたところ、「どうせ褒められへんし…」という返事。次の日は、児童一人で教室前の廊下を端から端まで一人で拭ききった。

その様子を担任に話すと、「にこにこしながら『僕一人で廊下を拭いたんで』と話してくれたので、一緒に喜びました」とのこと。こっそり担任から家庭にも伝えた。後日、児童本人から「『お母さんの一番の誕生日プレゼントだわ』と言っとんかった」と聞いた。

このような姿は、どこの学校でも見られるのではないのでしょうか？ 非認知能力を高めるための私たち教師の仕事は、子どもたちを褒める、認める、一緒に喜ぶことではないでしょうか？一緒に子どもの姿を見つめてみませんか？

- ◆ まだまだ、コロナは終息しそうにありません。ウィズコロナ禍において、「どんな研修が求められているのか？」「どうすれば有効な研修になるのか？」など、先生方のご意見をお聞きしながらできることを着実に進めていきたいと思えます。

柳原 守 指導主事

学校園支援事業、学校教育経営研修等の研修を担当します。「演劇ワークショップ」は、本年度より小学校1年生で全市展開となります。この取組が学級経営や学校の教育活動に役立つことを願っています。

中島 章博 指導主事

先生方の初任研や中堅研等の年次研修や教員免許状に係る仕事、PTA事務局を担当させていただきます。少しでも先生方のお役に立てるよう努力します。1年間どうぞよろしくお願いいたします。